



校内文化祭が終了！

16日(金)に、平成27年度校内文化祭を開催しました。午前中は、学年発表と1,2年の合唱コンクールが、午後には、3年の合唱コンクールと合唱部、有志発表、吹奏楽部の演奏が行われました。一日中、生徒たちの生き生きとした活動が見られ、実り多い文化祭となりました。

また、保護者の皆様にも多数ご来校いただき、生徒たちの発表を温かく見守っていただきましたことに、心より感謝申し上げます。



《2学年による全員合唱》



《3学年による発表》

任命式を実施！

23日(金)の6校時に任命式と各種表彰の伝達を行いました。特に生徒会役員、専門部や学級役員の皆さんには、リーダーシップを発揮して、よりよい二中を創造してほしいと思います。



(二中生の活躍)

- こども音楽コンクール東北大会
管楽合奏の部 最優秀賞(全大会出場)
- 県中地区中学校新人バスケットボール大会
女子 2位
- 県中地区中学校新人ソフトテニス大会
男子団体 優勝
- 男子個人 優勝 吉田英斗・會田遥輝
- 女子団体 3位
- 県中地区中学校新人バドミントン大会
男子団体 2位
- 男子ダブルス 3位 熊田一樹・大橋颯人
- 女子シングルス 3位 菅原 藍
- 県中地区中学校新人柔道大会
個人 3位 森 駿介(50kg級)
- 3位 佐々木竜太(66kg級)
- 3位 大河原涼(73kg級)
- 3位 十文字祐真(81kg級)
- 須賀川市民体育祭卓球競技
中学男子団体 優勝
- 中学男子シングルス 2位 兼子健太
- 3位 斎藤俊輔
- 中学女子団体 優勝
- 中学女子シングルス 3位 柳沼麻紀

合唱コンクール結果

- 金賞 1年4組、1年6組
2年1組(優秀賞)、2年6組
2年8組
3年2組、3年4組(最優秀賞)
3年6組(優秀賞)

- 指揮者賞 名越 美帆(105) 江幡 壱成(201)
小玉 凧紗(206) 佐藤 未祥(208)
内山 博道(303) 荒関 真基(306)
- 伴奏者賞 小野ひなた(104) 柏原 梨花(106)
奈良坂憲芳(201) 北野寿美怜(202)
八幡 優香(206) 柳沼 瑞希(301)
佐藤 陽菜(302) 安田 彩乃(306)

文化祭壁画デザインコンクール

- 最優秀賞 西間木華恋(2の2)

今年度の合唱コンクール最優秀賞は3年4組が獲得しましたが、2年の時はなんと銅賞だったようです。大変な逆転劇となりましたが、昨年の銅賞が生きたんだろうと思います。「失敗から何を学ぶか」これが大切なことです。



吹奏楽部が全国大会出場へ！

18日(日)に郡山市民文化センターで行われた「TBC子ども音楽コンクール」東北大会において、本校吹奏楽部が管楽合奏の部で見事に最優秀賞を受賞し、全国大会出場が決定しました。全国大会は、来年1月24日にテープ審査で行われます。結果を楽しみにしたいと思います。吹奏楽部は、文化祭の練習と重なり慌ただしい中での大会出場でしたが、今回の快挙に心から拍手を送りたいと思います。

また、これまで応援をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。



夢は叶う！

報道番組を見ていたら、心温まるニュースが取り上げられていましたので紹介します。

今月4日福岡市の小学校の創立20周年記念イベントとして、全校児童による“風船飛ばし”が行われた。児童一人一人が、色とりどりの風船に自分の夢を書いた紙をつけて飛ばす中、小学校2年の児童が「大きなステーキをまるごとたべたい。」という夢を書いて飛ばしたという。風船は風に乗って大分県まで約120kmを旅し、あるお宅の庭先へと到着した。風船がたどり着いたのは、なんとブランド牛になる子牛を育てる酪農家の家。風船についていた「児童の夢」を見た奥様は「お父さん、夢を叶えてあげましょう。」と提案。一週間後、ステーキ肉2枚(500グラム)と「これを食べて勉強、スポーツに頑張ってください。」との手紙が児童の元へ届けられた。児童は「ねがいごとをかなえてくれる神さまのおくりものと思いました。とってもおいしかったです。スポーツもべんきょうもがんばります。」とお礼の手紙を送りました。

この酪農家では、今までステーキを食べたことがなかったようです。児童の夢を叶えた行動には、心が温まる思いがしました。児童の夢を叶えた風船にも奇跡を感じました。

中学校見学会を実施！

小中一貫教育のひとつとして、小学6年生の中学校見学会を実施しました。

19日(月)に柏城小、21日(水)に須賀川二小、22日(木)に阿武隈小が来校し、授業参観や部活動の様子を見学しました。



(お知らせ)

11月14日(土)登校日になります。

公開授業(1,2校時)

教育講演会 10:45~

講師 腰塚 勇人氏

模擬店 12:30~

16日(月)は繰り替え休業日

こころの窓

高校受験や採用試験などの際、「人事を尽くして天命を待つ」という言葉がよく使われます。意味は、人間の能力のできる限りのことをしたら、あとは焦らずに、その結果は天の意思に任せることです。人間は、自分自身には甘い(?)もので、努力もせずによい結果を望むことがよくあります。どんな結果になっても悔いを残さないように、日々の努力を継続することが大切です。

機関誌「PHP」から的一篇を紹介いたします。

人事を尽くして

「人事を尽くして天命を待つ」ということばがある。誠に味わい深いことばである。私心にとらわれることなく、人としてないう限りの力を尽くして、その上で、静かに起こってくる事態を待つ。それは期待どおりのことであるかもしれないし、期待にそむくことであるかもしれない。しかしいずれにしても、それはわが力を越えたものであり、人事を尽くした限りにおいては、うろたえず、あわてず、心静かにその事態を迎えねばならない。その中からまた次の新しい道が開けてくるであろう。

こうした心境の尊さを人みながり、その境地をかみしめつつ、それぞれの人が、それぞれのつとめを尽くしたならば、この世の中は、もっと静かになるかもしれない。

天命とは、これだけのことを尽くしたから、これだけの結果が与えられるという、そんな計算の成り立つものではない。まして、私心多くなすべき人事も尽くさず、いたずらに都合よき成果のみを期待するのは、天命を知らざることはなほだしいと言わねばなるまい。目まぐるしい利害の波の日々の中ではあるけれども、時にお互いに三省してみたいものである。

三省…日に三たび反省すること。何度もわが身を省みること。